Interop®21 Tokyo

APRIL 14-16
MAKUHARI MESSE, JAPAN

Now or Never DX 今・やる！

14日―16日 幕張メッセ　オンライン展融合

ごあいさつ

デジタル変革、未来への扉開く

Interop Tokyo実行委員長
慶應義塾大学教授
村井 純

2020年は新型コロナウイルスの影響を受け、人類にとって大きな転換の年となりました。このグローバルパンデミックの中、インターネットが社会生活の重要な基盤であることが浮き彫りになり、急激にデジタル変革（DX）へのアクセルを踏んだ1年でもありました。昨春に緊急事態宣言が発出され、仕事、教育、エンターテインメント、食事など、私たちの生活スタイルはまさに自宅が拠点になり、デジタル技術を駆使したものとなりました。20年先に起きると考えられていた世界に突然タイムスリップしたのです。DXが追い付いていない部分があったのは、ある意味で当然なのかもしれません。

インターネット黎明期の1994年に始まった「Interop Tokyo」は、日本のインターネットの発展とともに歩みを重ね、28回目の開催を迎えます。Interopはその名前の由来である〝Interoperability（相互接続性）〟をテーマに、最新の機器、技術、サービスが一堂に会し、実稼働する様子が見えるだけではなく、それらが実際の利用者とどのように連携できるのかが分かるイベントとして、専門家から一般ユーザーまで広く、長く愛されてきた歴史があります。

私たちは今まで経験したことのない人類の課題と向き合う中で、DXが遅れているところは待ったなしで取り組むべき状況にいます。

「Interop Tokyo」に集まるすべての方々とともに次の10年、20年先を見据えてこれからの生活やビジネスシーンにおけるインターネットのあり方について考え、未来への扉を開く一歩を踏み出したいと思います。

そして、直面する大きな壁を乗り越え、新しいグローバル社会を生きていく時を先導する日本の、大きな自信と力につながるような活動を続けていければと願っております。

変化に大きく貢献しています。

一方で、日本ではデジタル活用がさまざまなところで遅れていたことが浮き彫りになり、急激にデジタル変革（DX）へのアクセルを踏んだ1年でもありました。昨春に緊急事態宣言が発出され、仕事、教育、エンターテインメント、食事など、私たちの生活スタイルはまさに自宅が拠点になり、デジタル技術を駆使したものとなりました。20年先に起きると考えられていた世界に突然タイムスリップしたのです。DXが追い付いていない部分があったのは、ある意味で当然なのかもしれません。

インターネット黎明期の1994年に始まった「Interop Tokyo」は、日本のインターネットの発展とともに歩みを重ね、28回目の開催を迎えます。Interopはその名前の由来である〝Interoperability（相互接続性）〟をテーマに、最新の機器、技術、サービスが一堂に会し、実稼働する様子が見えるだけではなく、それらが実際の利用者とどのように連携できるのかが分かるイベントとして、専門家から一般ユーザーまで広く、長く愛されてきた歴史があります。

私たちは今まで経験したことのない人類の課題と向き合う中で、DXが遅れているところは待ったなしで取り組むべき状況にいます。

「Interop Tokyo」に集まるすべての方々とともに次の10年、20年先を見据えてこれからの生活やビジネスシーンにおけるインターネットのあり方について考え、未来への扉を開く一歩を踏み出したいと思います。

そして、直面する大きな壁を乗り越え、新しいグローバル社会を生きていく時を先導する日本の、大きな自信と力につながるような活動を続けていければと願っております。

会場内で機能を検証

Interop Tokyo実行委員会は4月14日から16日までの3日間、千葉市美浜区の幕張メッセで「Interop（インターロップ）Tokyo2021」を開催する。インターネットテクノロジー、情報通信技術（ICT）に関する国内最大級の展示会として、技術動向やビジネス活用のトレンドを発信するイベント。今回はリアル展とオンライン展からオンライン開催に切り替えたが、今回はリアル展の開場時間は10時から18時（最終日は17時）まで。入場料は5000円（ウェブ事前登録者は無料）。

Interop Tokyoはネットワークインフラ設備・機器をはじめ、サイバー攻撃対策セキュリティー運用ソフトなどを展示する。テレワークの増加によるデータセンター（DC）の需要も高まっており、DC向けコンバーター、ブース、ラック、DC環境監視システムなどの製品・技術も注目される。

産業用途では第5世代通信（5G）や地域限定で利用できるローカル5Gの検証サービス、エッジコンピューティングによるトラフィックデータの収集・可視化・分析ソリューションなど最新技術が披露される。また、人工知能（AI）を活用したデジタルツインを行い〝相互接続性（インターオペラビリティー）〟を検証できるのが同展示会の特徴だ。

情報通信産業ネットワーク協会（CIAJ）発表の2020年10―12月期の通信機器市場の概況によると、国内市場金額は前年同期比19・4％増の9801億円だった。5G向け通信インフラ構築や、光ケーブル網の全国整備に合わせた設備投資は、新型コロナの影響を受けず継続して増加している。

ShowNetの構築・運用で相互接続性を検証する

八つのキーワード

Interop Tokyoは「ネットワークインフラ」「エンタープライズDX」「5G／ローカル5G」「セキュリティ」「モバイル／ワイヤレス」「IoT」「クラウドコンピューティング」「エッジコンピューティング」をキーワードに基調講演、セミナーを行う（ウェブから事前登録が必要、一部ライブ配信もあり）。

会期中、33本の基調講演を予定する。14日9時半から楽天の三木谷浩史会長兼社長が「楽天モバイルが実現するグローバルイノベーション 携帯業界の新常識を創る」と題し、楽天モバイルのこれまでの変革と今後の展望を語る。

16日9時半からNTTの川添雄彦常務執行役員が「限界打破のイノベーション IOWN構想について」をテーマに登壇する。革新的なフォトニクス技術を基盤としたNTTグループのネットワーク構想「IOWN（アイオン）」の取り組みや進捗（しんちょく）状況を紹介する。

会場内セミナーは58本を予定している。20年8月に5G投資促進税制が開始し、ローカル5Gの周波数追加や屋外利用が可能となった。15日10時半から第5世代モバイル推進フォーラムの大村好則事務局長が「ローカル5G普及推進官民連絡会」の設置や、グローバル導入状況について講演する。

同日16時半から産業技術総合研究所（産総研）人工知能研究センターの本村陽一氏が、DXによる価値創出のためのビッグデータを活用したAI技術について、予測・制御モデルを構築する確率モデリング技術を解説する。産総研人工知能技術コンソーシアムの取り組みも紹介する。

16日10時半からInterop Tokyo Best of Show Award審査委員会が今年注目の新製品を紹介する。同委員会は「エンタープライズIT」「セキュリティ」「ガジェット」「セキュリティ」など14部門を設けて審査し、エントリー製品からグランプリ、審査員特別賞などを選定する。

また、特別企画として「Connected Media Tokyo」を開催する。デバイスからオンライン端末の一つに変化しつつあるスマートフォンとの放送連携や、衛星放送ビジネスの今後の展望などをテーマに専門セミナーを11本予定している。

受賞新製品の展示にも注目

3展示会同時開催
ビジネスに活用

Interop Tokyoのほかに3展示会が同時開催される。位置情報を基にしたマーケティング、行動分析などに役立つ「ロケーションビジネスジャパン2021」がホール6の「アプリ1」（6ホール）はデジタルサイネージ市場の創出や、ビジネスシーンにおける活用方法を体感できる。映像を流すだけのディスプレー用途に加えて、顔認識や体温測定などニューノーマル時代に対応したソリューションも注目される。

また、「デジタルサイネージジャパン2021」（6ホール）はデジタルサイネージ市場の創出や、ビジネスシーンにおける活用方法を体感できる。映像を流すだけのディスプレー用途に加えて、顔認識や体温測定などニューノーマル時代に対応したソリューションも注目される。

オンライン展 広く情報発信

「Interop Tokyo2021」はリアル展と、三部構成のオンライン展を融合した展示会。

オンライン展はリアル展会期中のライブ配信の「フェーズ01」を軸に、19日から23日までコンテンツ配信する「フェーズ02」、6月9日から23日までInterop Tokyoカンファレンス（有料）を「フェーズ03」に定め、広く情報を発信する。フェーズ02、03の詳細は公式ホームページ（https://www.interop.jp）で順次公開する。

国内最大級インターネットテクノロジーイベント

Interop 21 Tokyo

Now or Never ～DX：今・やる!～

Webからの事前登録で 入場料5,000円(税込) 無料

会期・会場 4/14(水)－16(金)｜幕張メッセ
4/19(月)－23(金)｜オンライン開催

インターロップ 検索

注目の基調講演　他にも多数の講演を予定しております。　※3月29日(月)現在

4/14(水) KA1-04 12:30-13:10	4/14(水) KA1-01 9:30-10:10	4/16(金) KA3-01 9:30-10:10	4/15(木) KA2-01 9:30-10:10
Now or Never ～DX：今・やる!～ 慶應義塾大学 教授 Interop Tokyo 実行委員長 村井 純	楽天モバイルが実現するグローバルイノベーション：携帯業界の新常識を創る 楽天(株) 代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史 氏	限界打破のイノベーション IOWN構想について 日本電信電話(株) 常務執行役員 研究企画部門長 川添 雄彦 氏	自動運転の民主化 ～自動運転OS『Autoware』が作り出す未来～ (株)ティアフォー 創業者 兼 最高技術責任者(CTO) 加藤 真平 氏

主催 Interop Tokyo実行委員会　運営 一般財団法人インターネット協会　株式会社 ナノオプト・メディア
同時開催 Connected Media Tokyo / デジタルサイネージ ジャパン / ロケーション ビジネス ジャパン / APPS JAPAN
特別協力 WIDEプロジェクト
後援 各関係省庁・関係団体　お問合せ E-mail ▶ june-info@f2ff.jp

Copyright (c) 2021 NANO OPT Media, Inc. All rights reserved.